

国展工芸

への誘い いさな

⑥

魚文土瓶

金城次郎



と生き生きやエビ魚

金城次郎（1912〜2004）は壺屋の新垣栄徳の陶房で見習工として働く中で濱田庄司と出会い、大きな影響を受けて焼き物の道に進んだ。その後の活動は高く評価され、1985年に重要無形文化財保持者（人間国宝）《琉球陶器》に認定されている。「次郎の描く魚は笑っている」とよく言われるが、魚やエビなどを生き生きと描いた陶器は現在も県内外の人々に親しまれている。

（益子陶芸美術館・松崎裕子）

「90回記念国展工芸沖縄展」黎明から現代 匠の系譜」は10月2日まで。月曜休館。県立博物館・美術館美術館企画展示室。入場料は一般1200円、小中高500円。未就学児無料。